

やぶなべ

青森県立青森高等学校生物部 発行

誌名	やぶなべ
号/発行年/頁	5 / 1959 / 85-86
タイトル	青森海岸の海辺植物群落完成にあたって
著者名	岩崎厚

自然を見つめる やぶなべ会 (青森)

青森海岸の海浜植物群落

完成にあたって 三年 岩崎 厚

昭和31年度～昭和34年の4年間、青高生物部のテーマとして調査を進めて来たこの研究も今年で一応結論を出すこととした。これについて過去4ヶ年のいろいろなことをかりかえって見ることにして。この調査を始めたのは浪岡実業部長の頃(昭和31年)でその頃の天岡研究者には膳川、伊藤、五十嵐、諸先輩が居た。この研究に着眼し、又それと実行した浪岡先輩はこの調査完成にあたり次の様な手紙をお寄せ下さった。

「拝啓、海岸の植物群落、測定と一応結論を得たようですね。僕とその一員として心からお喜ぶ申し上げます。足掛け4年、速いものですね、初めて時の移りの疾さを眞實に感じた次第です。

その間、進歩がないと言われながらも、海浜植物の季節的変化、という副題と並んだようで内容の細部は抜きにして皆さんの努力と熱意を誰れも認めない訳にはゆかんでしよう、高校時代の若い情熱を発生らしく、それが何であつてとよ一つの物に没頭するその心の充実こそ羨ましくいものであり等しいのです。(中略)二つの群落の測定に際してこのテーマに関する要因の複雑多岐なことに驚かされ一層して研究の困難さを感じさせられることと思いますが、僕自身も例外ではなかつた。

生物の生活に影響するいろいろな要素が相互の様に結び合っているこの自然現象の綜合の中ではどんな小さな生物と言えどその支配から逃れることは出来ぬそこにこの研究の限界(高校生としては)もあり、当然総合的には出来るものではなくある範囲に制限されてくるわけであると思ひます、即ち各要因相互との関係、例えば、温度と生物の分布とか他種族が同種族との生存関係などのように一つの自然界の要素を抽出してそれが群落(或る集団生活)をいかに規定しているかという事で我々はこれから始めたいわけですが、たゞその目的がぼやけてしまつて了、測定技術の掃蕩の面白さに耽溺したようにも思えてはならなかつたが諸君の代になりや、本来の姿に立っているのを見てよろこんでいる訳です。(後略)」

そして浪岡先輩卒業後北尾、木下、鈴木、三橋、諸先輩に受継がれた、この時大二報を青森県理科教育研究会に発表、その後、私達が1年の時、天岡研究者に加わり調査を続けましたそして取手、又三報として日本動植物学会東北支部大会、秋の県大会に発表高校の部大ノ位を獲得、そして今年度は今年迄の研究を更に深く進めた。

その研究テーマは遊泳植物の季節的、距離的変遷である。これと4ヶ年の総合を一諸にしたのが青森県議会科学展では県知事賞を獲得、晴れの青森県代表となった。これと言うのと先輩、後輩が生物部と言うものを通じて協力、円滑した結果だと思えます。

この遊泳植物の調査はその研究内容が先輩、後輩の好リレーで充実し、又この調査が生物部にあつてはかくそ部の活動と充実したと信じています。諸先輩、諸先生の御助力誠にありがとうございました。